西日本新聞
（第3種郵便物認可）
2016年11月6日（日曜日）

TAO×竹田

文化芸術は街を元気にする！

日本の魅力伝える仕事

久住発 サンデーコラム

TAOが竹田市久住町に拠点を置いて20余年。活動規模は九州から世界、そして逆輸入という形で全国へ―。全国津々浦々、文字通り隅々まで足を延ばして公演活動を行ってきたが、ここ数年、「特殊な場」で演奏する機会が増えてきている。

2014年には日米野球80周年記念試合のオープニングアクト▽日本ミャンマー外交関係樹立60周年記念イベント出演▽1964東京オリンピック・パラリンピック50周年記念祝賀会での演奏―。2015年には北京・日中友好交流大会に日本代表として参加、そして今年は16年度国際交流基金事業「ウズベキスタン和太鼓公演」出演。これにはTAO特別顧問として安倍昭恵首相夫人が同行された。それからもちろん、10月22日に行った「第23回全国山城サミットin竹田」での無料特別ライブ…。

このような場での演奏が意味することは何か。日本を代表して、日本の魅力を限られた時間で最大限伝える仕事といっても過言ではないと思う。そんな大役に白羽の矢を立ててくれるのはこれ以上ない名誉だ。こういう場に出て行くことで、TAOの価値観もさらに変わっていく。これがやがて、観客が「TAOってどんな集団なんだろう？」という興味を抱くところから「TAOの音楽の生まれる拠点ってどこだろう？」「竹田ってどんなところ？」という土地への関心につながっていけばいいと思う。

拠点も共に価値を上げていく。全国に、世界に出て行きながら、活動はいつも拠点につながっている。自分が育った土地に恩返しをするようなご自然な感覚で、「地方創生」につながればうれしい。

向こう数年、日本ではビッグイベントが続く。大分では18年に国民文化祭、国際イベントでは19年のラグビーW杯日本大会、そして何より20年は東京五輪。それに向けての準備、というわけではないが、TAOはより一層、ひたすら日々、舞台をよくしていくことに集中していく。今日より良い舞台を明日見せていく。その積み重ねがさらに次の新作舞台制作へとつながり、さらに洗練された舞台芸術集団になっていけば、誰が見ても"カッコいい日本"がTAOの舞台で見られるはずだ。

（タオ・エンターテイメント社長、藤高郁夫）

上 ウズベキスタン・ナヴォイ劇場前で集合するTAOメンバー
下 安倍昭恵首相夫人らと記念撮影するウズベキスタン・ナヴォイ劇場での演奏メンバー